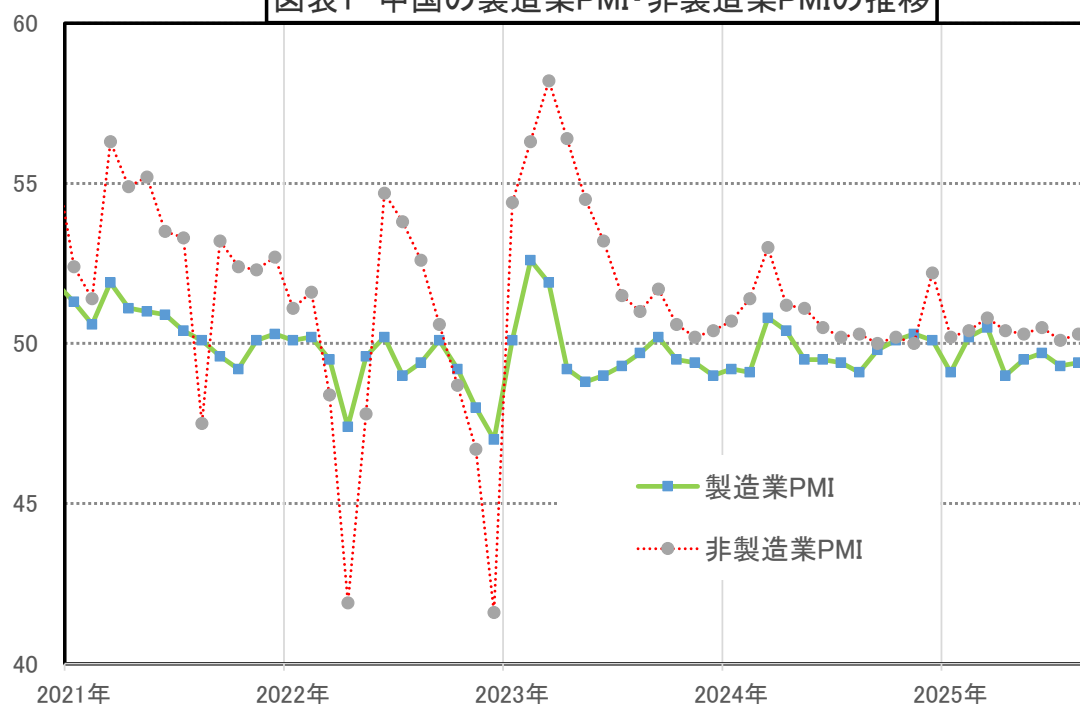


(中国)企業マインドは小幅改善も、雇用をめぐる環境が依然厳しい

中国国家统计局が8月31日に発表した2025年8月の製造業PMI(購買担当者景気指数)は49.4と7月から0.1ポイント上昇したものの、5か月連続で景況感の判断基準の50を割り込んだ(図表1)。製造業における景況感は小幅に改善したものの、全体として低迷状態が続いているとみられる。

図表1 中国の製造業PMI・非製造業PMIの推移



(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は25年8月。

製造業 PMI の詳細を確認すると、まず、企業規模別では、大手企業と小規模企業はそれぞれ 50.8、46.6 といずれも 7 月から上昇したが、中堅企業は 48.9 と 7 月から 0.6 ポイント下落した。

また、製造業 PMI の構成項目別では、生産、新規受注、新規輸出受注はそれぞれ 50.8、49.5、47.2 と 7 月から小幅ながら上昇したほか、原材料購入価格と出荷価格もそれぞれ 53.3、49.1 と 7 月から 1.8 ポイント、0.8 ポイントいずれも上昇した。他方、雇用は 47.9 と 7 月から 0.1 ポイント下落した(図表 2)。

さらに、製造業 PMI の業種別では、ハイテク製造業(電子情報、新材料、バイオ医療、新エネルギー、航空製造業などを含む)と装備製造業はそれぞれ 51.9 と 50.5 と、いずれも 50 を上回っており、7 月から上昇、全体を下支えした。

以上の動きからは、足元の米国向け輸出の減少をほかの国と地域への輸出拡大で補うという構図が変わっておらず、しばらくは中国輸出全体的大幅な減少には見込まれる。また、中央官庁や業界が積極的かつ強力的に「反内巻」(過度な価格競争を抑制すること)を進めていること

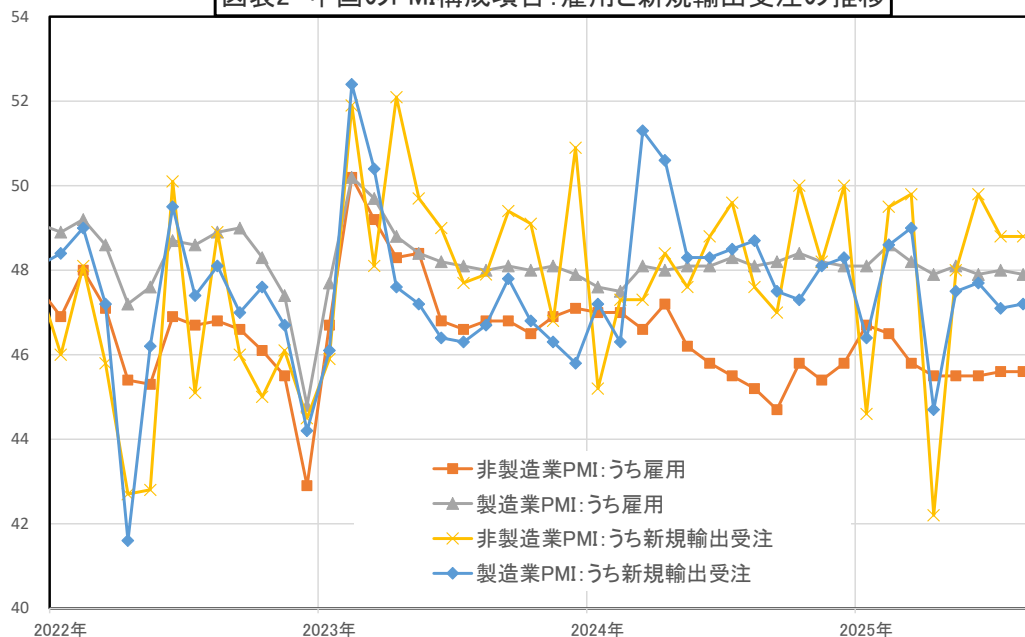
経済金融フラッシュ

で製造業の価格下落局面は改善の兆しが出ているとみられる。他方、製造業における雇用の状況が依然として厳しいと見受けられる。

製造業 PMI は 50 割れ状態が続いていることに対照し、株価対策やサービス消費の促進策などを受けて、非製造業 PMI は 50 超を維持している。8 月の非製造業 PMI は 50.3 と 7 月から上昇し、判断基準の 50 を上回る状態が継続している。

詳細をみると、新規受注と先行き活動予想はそれぞれ 46.6、56.2 と、7 月からいずれも 0.9 ポイント、0.4 ポイント上昇したが、雇用は 45.6 と 7 月から変わらず、その厳しさが続いているとみられる（図表 2）。

図表2 中国のPMI構成項目：雇用と新規輸出受注の推移



（資料）中国国家统计局、Windより作成、直近は25年8月。

業種別では、不動産市場の調整がなお続いているほか、洪水などの自然災害もあり、建設業は 49.1 と 7 月の 50.6 から 50 割れとなった。建設業の雇用効果が他業態に比べ比較的大きいことからその悪化は非製造業の雇用の厳しさにつながっていると推察される。

一方、サービス業は 50.5 と 7 月から 0.5 ポイント上昇し、50 超を維持した。サービス業のうち、中国の株価が 10 年ぶりの水準を更新したことなどから金融サービス業（資本市場サービス）は 2 か月連続で 70 超となっている。また、鉄道輸送、航空輸送、情報通信業（ラジオテレビ放送業）、衛星情報サービスは 60 超となっている。

以上の製造業および非製造業の PMI を踏まえると、8 月の総合 PMI 生産指数は 50.5 と 7 月から 0.3 ポイント上昇した。企業の景況感は、全体として小幅に改善したが、雇用をめぐる状況が依然厳しいとみられる。

こうしたなか、特に建設業の景況感を改善させるが必要となり、不動産市場へのテコ入れ策を強化することや、インフラ整備向け投資を押し上げるための新たな刺激策を打ち出すことが予想されるが、今後の政策動向を引き続き注視していきたい。